

2023年度通常枠PO研修

POチームでの伴走支援の事例共有

2024年9月18日

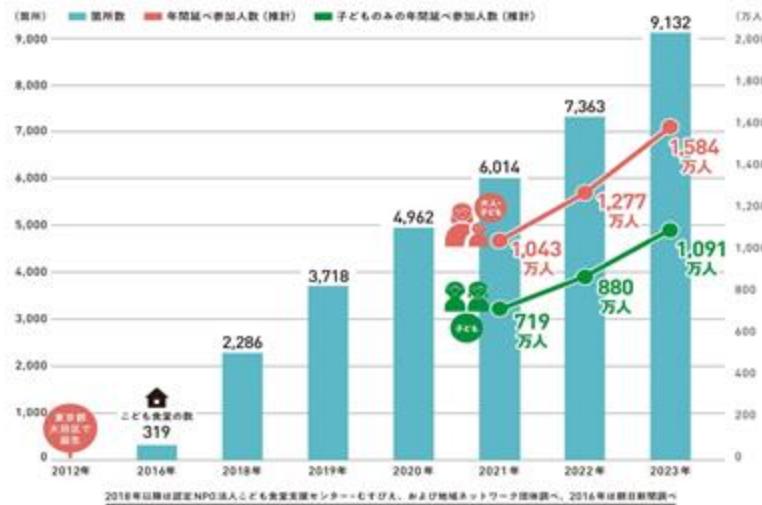


認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ
公認会計士 横山 正宏



こども食堂について

現在全国に9,132箇所あることが分かっています。
むすびえはこども食堂が全ての小学校校区に1箇所以上ある社会をめざしています。



※2024年2月確定値発表

（参考：全国の小学校は約2万校、中学校は約1万校、児童館は約4,000か所。）

むすびえが目指す地域



あっちにもこっちにも
こども食堂

こども食堂が、あたりまえにある街

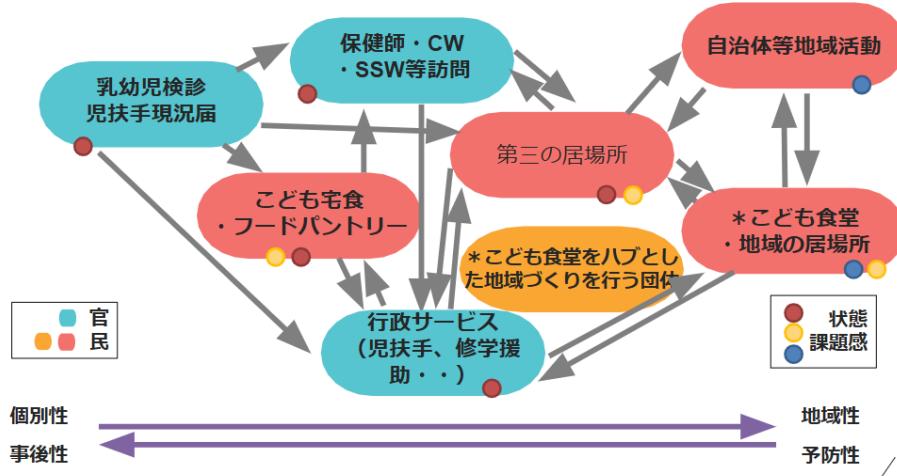


休眠預金2020年度通常枠の事業概要

事業名：居場所の包括連携によるモデル地域づくり

「子どもの貧困対策＝地域交流の促進」モデル自治体イメージ

- ・個別支援から地域参加までを一気通貫で見て、小学校区単位で地域資源を充実させる
- ・相互に発見・つなぎ・解決し合う（相互に互いの入口となり出口となる）人がこぼれにくい官民連携による地域づくり



＜事業内容＞

①地域の多様な居場所の連携実現とその可視化を行うモデル地域づくり

②モデルが他地域に波及するための全国レベルでの自律的かつ持続的な仕組みづくり

実行団体4団体

団体名	地域	事業名
社会福祉法人 堺市社会福祉協議会	大阪府堺市	堺市における居場所の包括連携によるモデル地域づくり～居場所の触媒機能と子ども・若者へのイエローシグナル相談支援体制の開発～
社会福祉法人 坂井市社会福祉協議会	福井県坂井市	坂井市版 居場所の包括連携による笑顔で暮らせるまちづくり－見せる・つながる・支えあう地域活動－
一般社団法人 タウンスペースWAKWAK	大阪府高槻市	市域広域包摂的なみまもり・つながり構築事業
NPO法人 新座子育てネットワーク	埼玉県新座市	にいざ子どもの未来 包括連携プロジェクト

社協2団体、NPO（社団含む）2団体
それぞれの実行団体で課題感が異なる

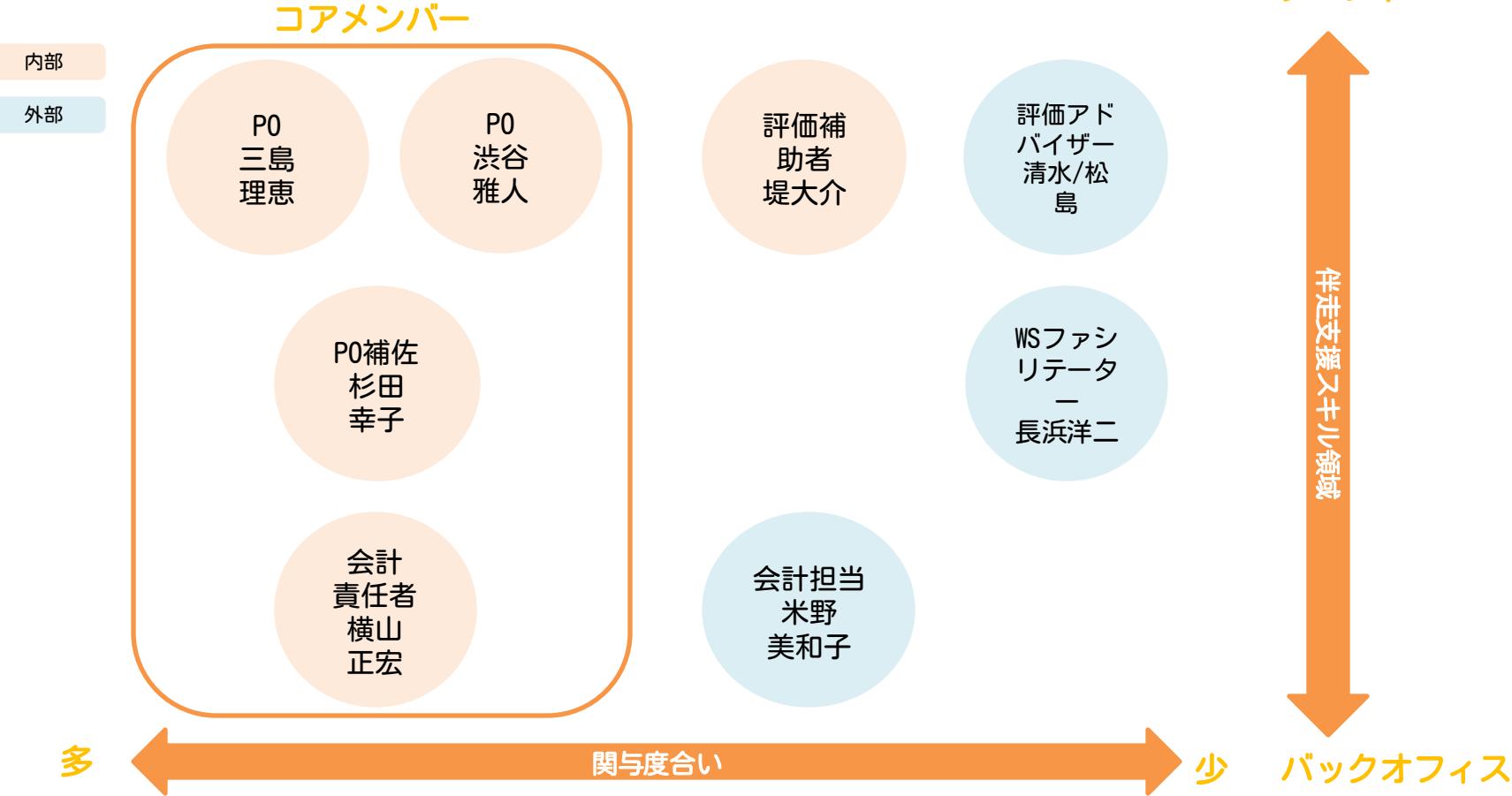
3年間の伴走支援を通じて感じたこと

<PO研修の伴走支援の類型>



PO1人ですべてカバーすることは難しい。。
チームでの伴走支援が必要

POチーム全体像



P0チームのスキルマトリックス

内部/ 外部	役割	名前	役職・資格・強み	伴走支援類型							
				組織運営 ・ガバナンス	人材育成・ボランティア	IT活用・広報	評価	事業運営	資金調達	ネットワーク形成	調査・普及・啓発
内部	P0	三島理恵	むすびえ理事、認定FR、広報		○	○			○	○	○
内部	P0	渋谷雅人	むすびえ理事、ファシリテーション		○					○	○
内部	P0補佐	杉田幸子	事務、人事、広報		○	○				○	
内部	会計責任者	横山正宏	公認会計士、認定FR、バックオフィス	○				○	○		
内部	評価補助者	堤大介	評価、認定FR				○		○		
外部	会計担当	米野美和子	税理士資格保有者、准認定FR	○							
外部	評価アドバイザー	清水/松島	日本ファンドレイジング協会				○				
外部	WSファシリテーター	長浜洋二	モジョコンサルティング代表					○			

一人ではマトリックスは埋まらない
チームで網羅的にすることで、実行団体の様々な課題に対応可能になる

伴走支援の実績（支援類型別）

伴走支援類型	支援内容例	全体支援回数	個別支援回数
組織基盤強化Ⅰ (組織運営・ガバナンス)	規定整備等のガバナンス支援、会計支援・アドバイス・相談	2 ★	
組織基盤強化Ⅱ (人材育成・ボランティア)	チームビルディング研修、実行団体への短期間出向、プロボノ・ボランティア活用支援	2	3 ●
組織基盤強化Ⅲ (IT活用・広報)	サービス情報の提供、HP・広報誌の作成支援、HP・SNS運用のコンサルティング		6
評価	評価研修・エコマップ研修の実施、ロジックモデル作成支援	4	
事業運営	理事会等への出席、代表者等との個別MTG、システムコーチング	1	5 ★ ●
資金調達	ファンドレイジング研修等の情報提供、戦略策定支援、戦略実践への伴走		4
ネットワーク形成	実行団体同士のマッチング支援、ネットワーク形成のための勉強会	1	4 ★
調査・普及・啓発	社会福祉協議会横断での研修会、地域での研修会・シンポジウムへの登壇	1	2
合計		11	24

★ … 外部支援者の活用あり ● … 特に注力した支援

チームであることで多様な伴走支援ができた

会計責任者（会計PO）としての伴走支援

1年目～2年目前半

ガバコン整備
関係性構築

- ・ 毎月の会計相談会 月次精算報告や資金計画に関する相談会を毎月実施
- ・ 規程整備のアドバイス 実行団体の現実に即した実のある規程整備・運用ができるよう、法律事務所と連携し、規程整備のアドバイスを実施。
- ・ 現地訪問 関係性を深めるべく、実行団体の事務所に訪問。

2年目後半～3年目

関係性をベースに
プラスの価値を生み出す

- ・ 会計相談 月次精算報告や資金計画に関する相談を受ける。
- ・ 現地訪問 関係性を深めるべく、実行団体の事務所に訪問。
- ・ FR戦略作成代行 財源確保が喫緊の課題であった実行団体について、会計PO自らFRスクールに入校し、代替でFR戦略策定。
- ・ FR外部伴走支援者のマッチング FR戦略の実行支援の必要があった実行団体について、FR外部伴走支援者のマッチングを実施。団体と外部伴走者との仲介役として毎月のmtgに同席。

チームでの伴走支援で大切にしたこと—チーム内

コミュニケーションが土台

- ・ チームとしてコミュニケーションを大切にしていた。
- ・ 理事もコアメンバーに2名いたが、特に初期の公募フェーズは、毎朝mtgを実施。結果としてチームビルディングになっていた。
- ・ 公募フェーズのmtg時にメンバーから出た「ピアノの連弾」が、3年間の伴走支援の共通認識＆迷ったときの拠り所に。



役割分担

- ・ 三島・渋谷が攻めのP0、横山が守りのP0といった役割分担をしていた。
- ・ 攻めのP0が実行団体のモチベートや関係性の変容、守りのP0が会計・ガバナンスの役割をそれぞれ意識。
- ・ それぞれが得意分野に注力することで、伴走支援がより効果的にできた。

チームでの伴走支援で大切にしたことー対実行団体

イコールパー
トナー

一步踏み込む
伴走支援

- ・ 「資金分配団体と実行団体はイコールパートナーである」というメッセージを、3年間むすびえから実行団体に出していた。
- ・ お金=パワーであるので、資金分配団体は意識せずとも実行団体に支配力を持つてしまう。
- ・ 資金分配団体がある種「降りていく」ことで、実行団体とイコールパートナーでいることを意識し、関係性の向上に努めた。
- ・ 横山自身がFRスクールに入校して、実行団体のFR戦略策定を行ったことにより、一步踏み込んだ伴走支援の大切さが実感できた。
- ・ 休眠事業終了後の出口戦略を実行団体が検討する契機になっただけでなく、FR戦略策定のために代表との1on1の実施や理事会・その他mtgに出席することにより、実行団体内部の関係性に良い影響を与えることができた。

最後に—どうやってチームを作るか

ネットワークを増やして専門家を巻き込む

- ・ 今回関わっていただいた専門家はいずれも、過去にお仕事でご一緒した方々。出会った上で、仕事をお願いしてみることが大事。
- ・ 休眠事業はある程度柔軟性がある予算の執行ができるので、専門家との中長期的な関係性創りの第一歩に向いている。

<具体的には>

- ・ イベントに出向いてみるなど、まずは出会ってネットワークを増やす。
- ・ 専門家、特に会計士・税理士・弁護士・司法書士等の士業は、自分たちの知らない領域に無意識的に抵抗感や恐れを抱いている人が少なくない。しかし、頼られるのはうれしいと感じる人が多い。
- ・ また、NPO=ボランティアというイメージもある。
- ・ そのため、休眠事業を活用してお仕事を依頼することで、ソーシャル領域に対する抵抗感を少なくし、ソーシャル領域でも対価をもらって仕事ができるというイメージに変えていく。
- ・ その結果、中長期的に支援する専門家となってくれる可能性が生まれる。